
私と とある不思議なお店

創涙ハカル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私と とある不思議なお店

【Nコード】

N79060

【作者名】

創涙ハカル

【あらすじ】

前回の久しぶりの来訪者の連載版です。

主人公（野々原恵）は 明くる朝いつもどおり 学校へ向かうため 部屋を出ようとドアを開けると、そこは見知らぬ世界に繋がっているー？

主人公がどうなるかは、私も書いて見ないとわかりません。

ドアの先には

カーテン越しから見える陽射しに私は目が覚めた。窓から鳥のさえずり声も聞こえる。

はあ。と思わずため息が漏れた。

「恵^{めぐみ}。さっさと起きなさい！今日は球技大会でしょ」

うう。思い出したくなかったのに。そう、今日は球技大会なのだ。しかも種目はサッカー！

私こと野々原恵^{のほらのめぐみ}は大の運動音痴であり、運動嫌いだ。

なのでこの球技大会は私にとって地獄とっていい。

「めーぐーみ！起きてるの？」

徐々に母親の声に怒りが含まれてるのを感じて、私は急いで制服に着替えた。

「はいはい。今行くよ」

母親のお叱りを受けないようにと 急いでドアを開けた瞬間。

ブワッと花びらが勢いよく自分にかかるのを感じた。それと同時に

目を見開く。

「へっ？」

なんせそこは家の廊下じゃなく 辺り一面がお話畑へとなっていたから。

そそーっと静かにドアを閉めた。気持ちを落ち着かせて振り返る。

「よし、私の部屋だ！」

そして息を呑み、もう一度ドアを開けた。

ブワツと花びらが舞う。

「やっぱり変わらない……」

なにがなんだかわからなかったが、ものの好奇心が勝って私は足を進めることにした。

なんとも不思議な光景だった。

辺り一面に咲く花は、スミレや向日葵にバラ、なぜかスノードロップと季節関係なく咲いて美しい色合いを見せている。

空を眺めると快晴のなか、月以外の惑星がなぜか見えていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7906o/>

私と とある不思議なお店

2010年11月8日15時30分発行